

## 教育・研究・地域連携の一体的推進事業 実績報告書

責任者氏名

小川 孔美

所属

社会福祉子ども学科

## 1 事業活動の実績報告について（2023年2月末）

## ①教員と学生がともに取り組んだ方法

アクティブ・ラーニングによる IPE

溝上慎一は「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。」<sup>1)</sup>と定義しており、包括的・操作的な概念であると示している。この認知的プロセスとは、知覚・記憶・言語・思考〔論理的／批判的／創造的思考、推論、判断、意思決定、問題解決など〕といった心的表象としての情報処理プロセスを指し、これらを取り入れた学習活動、及び専門職連携教育（IPE）「2 つ以上の専門職者が、連携・協働の質、ケアの質を向上させるために、共に学び、お互いから学び合いながら、お互いについて学ぶ機会」<sup>2)</sup>として取り組んだ。

## 引用文献

- 1) 溝上慎一, アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換, 東信堂, 2014
- 2) 埼玉県立大学, 新しい IPW を学ぶ 利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携, 中央法規, 2022

## ②地域に根差した活動内容

わが国の 2021 年の情報通信機器の世帯保有率は、「モバイル端末全体」で 97.3%、そのうち「スマートフォン」（以下、スマホ）は 88.6%、パソコンは 69.8%<sup>1)</sup>となっており、約 90%の人がスマホを所持している。なかでも、シニアのスマホ所有率は、60 代のスマホ所有率は約 9 割に達し、70 代も 7 割を超え<sup>2)</sup>ている。

しかし、シニア世代の方の中には、手元にスマートフォンを持っていても、「電話しか使っていない・・・」「メールを送ることができない」「写真はとってみたが、どこに保管されているのかわからない」「LINE のアプリは友だちに入れてもらったけれど、使えていなくて見てるだけ」という方がおり地域の課題として挙がっていた。

埼玉県立大学に隣接する千間台地域では、「千間台西エリア地域支え合い会議」が開催されており、令和 2 年 8 月、11 月の 2 回の勉強会にて、社会資源の把握や「あったらいいな（望み）」と思う取り組みについて意見が共有され、絞り込まれた「望み」のなかに、「埼玉県立大学生との交流」「ふらっと立ち寄れる場所」「高齢者への IT 教育」が挙げられていたことから、本事業活動と研究を計画した。

まず、最初に行われたのはスマホ相談会であり、第 1 期、第 2 期と各 3 回ずつ計 6 回実施した。

学生らは、上記スマホ相談会におけるリフレクションと対話を重ね、「相談会」だけでは、スマホ支援として不足であることをふまえ、大学にて行う「埼玉県立大学 やどり木 SPU スマホサロン」の実施、及び 埼玉県立大学と地域を結ぶ コミュニティトークルーム「やどり木 オープンチャット」を展開した。

また、学生らの能動的学習の結果として、継続的に今後も活動していくためのサークル「やどり木 SPU binders」が立ち上げられた。

## 引用文献

1. 総務省「第 8 節デジタル活用動向—情報通信機器の保有状況」『令和 4 年版情報通信白書』P93. <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nd238110.html> (2023. 2. 1)
2. 株式会社 NTT ドコモモバイル社会研究所「第 8 章 シニアの生活実態と ICT 利用」『モバイル社会白書 2022』p 226. [https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp22/pdf/wp22\\_chap8.pdf](https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp22/pdf/wp22_chap8.pdf) (2023. 2. 1)

※活動実績詳細

□スマホ初心者でも大丈夫！！【県立大学生と一緒に学ぼう】

スマホ相談会@千間台記念会館

▶第1期 スマホ相談会開催日程

第1回 令和4年6月19日（日）午後1:30～3:00

第2回 令和4年7月16日（土）午後1:30～3:00

第3回 令和4年8月20日（土）午後1:30～3:00

当初、参加者15名を予定していたが、参加希望者多数のため、30名程度に増員して実施。

▶第2期 スマホ相談会開催日程

第1回 令和4年9月17日（土）午後1:30～3:00

第2回 令和4年10月22日（土）午後1:30～3:00

第3回 令和4年11月19日（土）午後1:30～3:00

対象15名に実施

スマホ相談会は、1クール3回、毎回1時間半実施。

1回目は皆さんの関心が高いLINEアプリについて、

2回目は写真アプリについて、

3回目は地図アプリと乗換アプリについて取り上げ、アプリについて説明後、グループで、アプリのこと、また、日頃困っていること、知りたいと思っていること、何でも自由に気軽に質問したり、学生と会話できる時間を多く確保した。



□ 埼玉県立大学 やどり木 SPU スマホサロン

SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY  
**埼玉県立大学**  
**やどり木SPUスマホサロン**

第8回開催します!

皆さん、お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください!

日時:令和5年3月18日(土)  
 第1部 10:30~13:00 第2部 14:00~16:00  
 場所:埼玉県立大学 北棟2階 講義室211 (予備212)

埼玉県立大学の学生とスマホのわからないことを一緒に確認したり、毎日のちょっとした出来事をお話しいらっしゃいませんか。すべての質問には、お答えできない場合があります。あらかじめご了承ください。

参加無料/予約不要です。どうぞお気軽にお越しください!  
 (お問い合わせ) やどり木 [yadorigi.spu@gmail.com](mailto:yadorigi.spu@gmail.com) TEL 048-973-4163  
 不在の際は折り返しをいたしますので、留守番電話にお名前、電話番号をメッセージに残していただけますようよろしくお願いいたします。

QRコード: やどり木スマホサロン (QRコード)

©Supported by 千間台西・地域交流委員会

▶スマホサロン開催日程

- 1回目 6月20日(月)
- 2回目 7月18日(月)
- 3回目 10月29日(土) 清透祭
- 4回目 11月28日(月)
- 5回目 12月12日(月)
- 6回目 2023年1月16日(月)
- 7回目 2月16日(木)
- 8回目 3月18日(土)



スマホ相談会で学んだことを、家で復習しようとした際(あれ?ここはどうするんだっけ)と迷ってしまうことや、動かし方を思い出せずに苦労する時があるという声が聞かれるようになる。

そこで学生と話し合いスマホサロンを開催実施について検討した。

授業の空きコマに担当できる学生が、地域の方に来訪いただき大学のなかで行うスマホのことを含めておしゃべりをするサロン。私たちは、そのサロンを「やどり木 SPU スマホサロン」と名付け継続して展開している。

スマホ相談会にはご主人のみ参加されているが、「家に帰って、教えてもらったことを妻にうまく伝えられなかった(教えられなかった)よ」と、スマホサロンには奥様と一緒に参加してくださったご夫婦もいた。

また、「ウォーキングの途中でちょっと寄ったよ」「今日、これからテニスなんだ」と大学に立ち寄り、地域の皆様の暮らしのなかに溶け込む形で、気軽にスマホに向き合うことが可能な場所となっている。





□ 埼玉県立大学と地域を結ぶ  
コミュニティトークルーム やどり木 オープンチャット

スマホ相談会、スマホサロンとスマホをとおして交流する場ができてきたが、高齢者の方は、日常的にスマホを使用しなければ、なかなか操作や手順に慣れることができない。

また、学生らと、ちょっとした質問を日常的に投げかけられる場があるとより地域の方は心強いのではないかと話し合い、私たちは埼玉県立大学と地域を結ぶ「やどり木 オープンチャット」というコミュニティトークルームを作成した。

スマホ相談会などで新たに学んだことを喜ぶ投稿が展開されたり、お互い学び合っている様子のやりとりが展開された。



写真に文字を入れることができました  
うれしい！

写真アプリの使用方法を学んだあとでは、日々のウォーキング等の際にスマホで撮った写真にお花の名前を入れ、旅行先の場所を写真で伝えるなどの投稿があり、それぞれが復習をしながら、日常生活を満喫している様子が共有された。





昨日の復習をしてみました 文字の大きさの調整が難しい 慣れるしかないでしょうね

そうですね。道のりは長いですが、お互い頑張りましょうね～！

とお互い励まし合う会話も展開され、日常的に切磋琢磨するコミュニティトークルームになっている。

また、季節に応じ、暑さが続く日には涼しい動画を共有し涼しさを分かち合いつつ、コミュニティトークルームのメンバーとなっていない自身の友達にもさらに動画情報を伝えていくなどの展開や、身体を気遣う言葉が交わされた。また、敬老の日には、学生からお祝いの動画を送り大変喜ばれた。

素敵な動画をありがとうございます。早速友人に送るのに使わせていただきます😊

暑い日が続きますので、皆さま熱中症などにはくれぐれも注意して夏を楽しくお過ごしください🌻

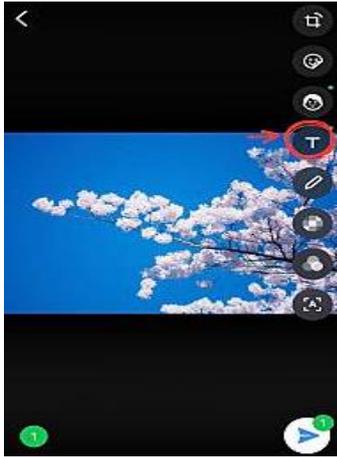


家で使っているうちに操作が分からなくなってしまった方が、気軽に質問できるコミュニティトークルームとしても非常に有効に機能した。

写真に文字入力のやり方を忘れてしまいました。どなたか教えてくださいませんか？

ご質問ありがとうございます😊  
LINE 上なので簡単になってしまいますがご説明致します。

写真に文字を入れるには、まず写真を選択していただき、下のような画面になりましたら赤丸で示した「T」のマークを押していただくと文字を入力することができます！



写真の右側にご案内のマーク出てこないのです

一度写真を軽くタップしてみると出てくるかもしれません。

できましたー！お忙しい時間に突然でしたのに、ご丁寧にありがとうございました。感謝です！

上記の会話を確認した他の方から、

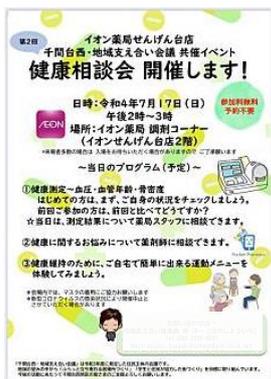
私もやってみます！

というやる気に満ちた言葉が伝えられることもあった。

また、次回のスマホ相談会等より前に確認したいことができたときにも積極的に利用された。

次回質問しようと思っておりましたが、次の様な事は出来ませんか。  
写真でバス時刻表やコロナ証明書を取り込んでいます。  
私のスマホは日付け順に記録しており、見つけるのに、時間がかかります。  
時刻表だけすぐに見られる裏技はありませんか。

このコミュニティトークルームには、社会福祉協議会、地域包括支援センター、市役所などの担当者も加わっており、また、大学のボランティアサークル等から地域の方に周知したい情報、イベントの告知などがタイムリーに伝えられ、地域の方の参加度に貢献している。



このたびのスマホ相談会、スマホサロン等の参加者人数はのべ約 300 名に及ぶ。

スマホ相談会において、基礎的な活用方法を知り、スマホサロンにて復習や応用の相談に応じ、オープンチャット（2023 年 3 月現在、76 名登録）というコミュニティトークルームにて日常的にデジタル支援を行うということは有効といえる。



### ③教育・研究・地域連携との関連性

アクティブラーニング及び研究から得られた知見（本研究では「スマホにおけるデジタルデバイス要因」「スマホ機能を知る（利用できる）ことによる効果（生活の変化）」等について主に明らかにした）をもとに、スマホサロンや地域支え合い会議等でその成果や課題等についてお互いに意見交換し、これまでの経験と関連付け、また日常において応用しつつ、学生及び地域住民らがお互いが学び合う関係性を培うことは、地域までもを包含した学習の共同体となることを期待でき、アクティブラーニングの重要目的である「教室の社会への外化」（社会化）と「主体的に社会に参加する個への内化」（主体化）の可能性を秘めていると言えよう。

### ④学生の主体的活動（アクティブラーニング）内容

スマホ相談会におけるリフレクションと対話を重ね、「相談会」だけでは、スマホ支援として不足であることをふまえて、大学にて行う「埼玉県立大学 やどり木 SPU スマホサロン」の実施、及び 埼玉県立大学と地域を結ぶ コミュニティトークルーム「やどり木 オープンチャット」を展開するに至ったこと、また学生らの能動的学習の結果として、継続的に今後も活動していくためのサークル「やどり木 SPU binders」が設立され継続的な活動に繋がっている。

なお、IPE の観点からの成果としては、「健康に生きるとは」「健康を多方面に捉えるための普遍的な教養とリテラシー」等を学んでいる健康開発学科 健康行動科学専攻の学生は、この度の取り組みを通じて学んだ成果について、

「健康について学んでいるが、実際に高齢者に接してアプローチすることで、健康に貢献することを初めて実感できた」

と述べている。

また、看護学科の学生は、

「病院にいる患者ではなく、地域において生活している高齢者をはじめ人々が元気に活動しており、様々な考え、それぞれの生活背景があることを実感」

していた。病院に入院している患者は、患者である前に地域にて暮らす人々であることをあらためて意識したようである。

4 年生の IPW 実習まで「実習」に一度も行く機会がない健康行動科学専攻の学生は、

「高齢者と接するとき、また話をする際、社会福祉子ども学科や看護学科の学生の話選びや話しかけ方等を大いに参考にした」

と表現しており、その学びを多職種にて共にリフレクションすることにより、より自主的学びが深まっていた。

## ⑤その他

本研究活動の結果は、第10章にわたる報告書

「シニア世代がもっと楽しくスマートフォンを活用するために  
- 地域支え合い会議と埼玉県立大学との取り組みから」

としてまとめている。

第2章、第3章、第4章には、本研究で実施したアンケート、インタビューから得られた質的分析結果を報告している。

このたびの活動実績をもとに、次年度は、越谷市だけでなく、春日部市や蓮田市でも本取組みを展開予定である。

### 【関連HP】

- 越谷市公式ホームページ 各地区の「地域支え合い会議」について  
大袋地区(千間台西エリア)

[https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kurashi\\_shisei/fukushi/koureisha/chiikinოსასაეაი/sასაეაიკაიგი.html](https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kurashi_shisei/fukushi/koureisha/chiikinოსასაეაი/sასაეაიკაიგი.html)

- 大学生から人生の大先輩へ、世代を超えた贈り物 クラウドファンディング実施

[https://readyfor.jp/projects/SPU\\_ogawaseminar](https://readyfor.jp/projects/SPU_ogawaseminar)